

カトリック河原町教会だより

2012年9月

平和のためのミサ

8月5日(日)10時半のミサは、「平和のためのミサ」として、比叡山宗教サミット25周年記念「世界宗教者平和の祈りの集い」に、パチカン代表として出席された教皇庁諸宗教対話評議会・前局長ルイジ・チェラータ大司教、パチカン駐日教皇大使ジョセフ・チェノットウ大司教、大塚喜直司教によって司式されました。

比叡山サミット記念式典は、8月3日(金)午後1時から国立京都国際会館で開会式、梅原猛氏による記念講演とシンポジウム等が催され、8月4日(土)には比叡山延暦寺根本中堂前広場で平和の祈りの式典が行われました。



子どもたちから花束を受けるルイジ・チェラータ大司教(中央)、ジョセフ・チェノットウ大司教(右)

土曜学校 錬成会

河原町教会土曜学校の夏季錬成会が8月9日(木)～11日(土)の3日間、日吉山の家(京都府南丹市)で行われました。

指導司祭は鶴山進栄神父様で、小学2年生から6年生の22名と高校生、中学生の

先輩たち6名のサブリーダー、お母さんたちとスタッフの総勢39名でした。天候にも恵まれ、みんなのこころが一つになる楽しい錬成会でした。

今年のテーマは「イエスさまを知ってしまった人たち」で、「よいサマリア人」(ルカ 10:25-37)と「日本26聖人」を通して神さまの愛について学び、皆で分かち合いました。



鶴山神父様を囲んで分かち合い



すいか割り

十字架称賛

9月14日は十字架称賛の祝日です。キリスト教を公認したローマ皇帝コンスタンティヌスの母ヘレナが、西暦320年頃のこの日にエルサレムでキリストの十字架の遺物を発見したという伝承に基づいています。十字架は、現代のわたしたちにとってはごく身近なものとなっていますが、当時十字架刑は、極悪人だけに科される最も残酷で非人間的な極刑であり、目をそむけずにはいられないものでした。その十字架にイエスがかけられ、それを今わたしたちは崇拝し、称賛しています。それは、「信じる者」にとって十字架こそが神の愛と救いの完全な現れだからです。

イエスは、ユダヤ教の神を冒瀆する者、政治犯として十字架刑になりました。しかし実は、イエスを十字架につけ



たのは、人間が原罪として持っている憎しみや嫉みといった自己中心性だったのです。これは二千年前の出来事ではなく、現代のわたしたちの問題そのものであると言えるでしょう。イエスは、なされるがままに、人間の憎しみと暴力の結果である十字架を受け入れられました。自分のすべてを手放し、与え尽くし、そして弱さそのもの、無力そのものになられたのです。神の御子は、わたしたちを救うために人となられ、最後は自分を十字架につけたわたしたち人間をゆるすことによって、憎しみ、嫉み、暴力を内側から「ゆるし」と「愛」に変えられました。こうして、十字架という一見愚かなもの、つまづかせるものを、神は人間の救いの源とされたのです。

特集 平和旬間行事

東日本大震災から一年半、今

2012年平和旬間行事として、大船渡教会に派遣されている森田直樹神父と救援ボランティア活動に参加された聖ドミニコ女子修道会シスター庄子、シスター竹内による現地報告会が8月12日(日)ミサ後、ヴィリオンホールで行われました。180名を超える大勢の方々が集まり神父様、シスターの心に響くお話を聞きました。タイトルにありますように、東日本大震災から一年半が経過しましたが、復興には10年も20年もかかるといわれています。今、わたしたちは何ができるか、何をしなければならないかを一緒に考えましょう。

《シスターからの報告》

◆「カリタスさん」ありがとう



わたしたちが被災地でボランティア活動をしていると、皆さんから「カリタスさん」と呼ばれます。教会ではお祈りをしますが、ベース(救援センター)でのボランティア活動中は目に見えるようなお祈りはしません。カリタスというのはラテン語で神様の愛、三位一体のわたしたちの父なる神の愛のことです。「カリタスさん」と呼ばれるとき、神様の愛が皆さんに伝わっているのだと感じます。

シスター庄子

◆愛の反対は無関心

マザーテレサは「愛の反対は無関心」と言われましたが、このボラン



南三陸町の防災庁舎:津波はこの3階建ての屋上2mに達した。

ティア活動を通して、この言葉の重みを実感しています。この被災地のベースで大きな力になって活動しているのが信徒の皆さんです。わたしたちボランティアは、自分勝手に行動するのではなく、ベースから依頼されたことをするのですが、信徒の皆さんも与えられた活動を黙々とやり遂げ、その力強さと、底力は、その地域で本当に信頼される存在になっています。



◆ボランティアは誰でもできる

ベースでのボランティア活動というのは、自分がしたいことをするわけではありません。これをしてくださいと言われたことを迅速に、しかも喜びをもってするのが基本です。ベースに行けば誰でも、必ず何か自分にできることがあります。現地では食事や寝る場所も用意されています。まだまだ多くの人の力が必要です。ぜひボランティアに参加してください。ポ

ランティアに行きたくても行けない方は、無理をしないで、お祈りで被災者や救援に携わる方々を励ましてください。

◆黙ってお話を聴く

ある日のボランティアで「たこ焼き」を作って提供する活動がありました。たこ焼きを提供するには、前の日から準備にとりかかります。タコを仕入れる人、メリケン粉を準備する人、ネギや紅ショウガを準備する人…この作業一つでも大勢の人の力が必要です。たこ焼きは、子どもから高齢の方まで、どなたにも喜んでいただきました。熱々のたこ焼きは心をやさしく開いてくれるのかもしれませんが。被災者の方は召し上がりながら、地震のこと、津波のこと、家族のこと、これからのこと…いろいろと話されました。最初から聞こうと思っていなかったわけではありません。自然のなり行きで、耳を傾けていました。お話が終わった後で、「お話しをして下さってありがとうございました」と言いますと、「聞いてくださってありがとう、来てくださってありがとう」と何度も言っておられました。



たこ焼きボランティアで被災者の皆さんと交流

四 土曜夕方、日曜早朝ミサの聖歌

①歌のリーダーが必要

②伴奏者は杉本氏が依頼する

五 規約委員会

①評議会の後、十五分程度

評議員で話し合う

六 ロザリオの祈り、高山右近関連

①ロザリオの祈り

十月七日から十一月四日まで

毎日曜日十時より

「ロザリオの祈り」を唱える

②高山右近関連の行事

キリンシヤン研究会から、行事の案内があれば参加する

七 部会報告

施設管理部

・楽廊、地下小部屋等、今までやつて

いなかった場所もワックスがけを行う

・集會室、ガラスの下部・壁面に劣化箇所あり、早急に修理を行う

八 その他

①役員研修会 九月一日(土)

役員三名が参加

②求道者に同伴する信徒の養成講座

各部に呼びかけ参加可能者を推薦する

③ウォーカーズ

十一月三日(土) 文化の日

例年通りの協力を依頼する

わたしたちは何ができるか、何をしなければならないか

《森田直樹神父様のお話》

◆大船渡教会が光の道しるべに

大船渡教会は小高い丘の上にあり、この周辺には6mの津波が押し寄せましたが、教会の建物には及びませんでした。しかし、地盤が沈下していますので、今後も安全かどうかわかりません。教会から見渡す限り瓦礫のほかは何もありません。わたしが赴任したころ教会の周辺は真っ暗闇で、信号もない、街灯もない、ガードレールは歪んでいる、歩道には深い溝がありとても危険な状態でした。そんなある日、近くの冷蔵倉庫の前の自動販売機が稼働しました。真っ暗闇に浮かぶ自動販売機のあかりは、本当に嬉しかった。教会が、まさに、そういう存在でありたいと感じました。丘の上の教会の十字架が光の道しるべになるよう願っています。



大船渡教会(中央)と海の星幼稚園

派遣され、活動しておられました。被災地の教会に大事なことは、そこに司祭が居ること、住んでいること、祈ること、ミサがあること、信者が集うことです。100人程の小さな教会ですが、塩田神父様の努力もあって、フィリピンから嫁いで来たお母さんや子どもたちも集う教会になってきました。

◆支援の意向を伝える 被災者の声を聞く

皆さんからの支援金は現地でいろいろなところに使われています。カリタスジャパンからの支援金はベース(救援センター)の運営に、また、京都教区サポートセンターの支援金は、大船渡ベースの活動のために使われています。支援金はまだまだ必要です。これからも引き続き支援をお願いします。支援金には「仮設住宅に住む人のために」とか

「被災地の子どもたちのために」というように、支援の意向を書いていただくと、そのように使われます。是非意向を書き添えてくださるようお願いいたします。

物を送っていただく場合は、事

前に教会あるいはベースに連絡して、声を聞いてください。季節の変化もあり、被災者の置かれている状況も刻々と変わっています。被災地の生の声を聞いてくださると、とても助かります。



森田直樹神父

◆大震災から日本社会の 「ひずみ」「ゆがみ」を学ぶ

大震災、大津波の被災地を考えるという事は、苦しんでいる人たちに、どう接しようかということだけではありません。復興が長引いている現状から、日本社会の「ひずみ」や「ゆがみ」についても気づき、考えてください。日本は大都市中心の経済、物流になっています。地方は疲弊し、過疎化が進行しています。田舎には雇用も無く、働きたくても働く場がありません。また、弱者切り捨ての政策が平然と行われています。一年半経った今も、鉄道や橋は、未だに復旧せず、大船渡は陸の孤島のままです。高齢化と、国際結婚が生み出す様々なひずみは深刻ですし、瓦礫処理を受け入れない風潮は大きな問題です。

人間存在の根本を見つめ、生きるとはどういうことなのか、死ぬとはどういうことなのか、人間は本来どうあるべきなのかを、わたしたちは、今問われています。

ある神学者の「わたしたちは震災、津波を通して、自分が傷ついて祈る信仰をいただいた。十字架を担い祈る信仰をいただいた」という言葉を心に刻み、皆様と共に祈り続けたいと思います。

八月評議会報告

一 司祭団より

十月十七日(水)河原町通り工事完成式典が行われる。(ハレット振興商店街主催)。式典はロイヤルホテルで行われ、当教会は前庭にテントを張るなど、協力する。

二 九月の行事

①ブロック会議

九月八日(土) 山科教会

議題

・司教訪問 スケジュール

・合同部会

・教区宣教司牧評議会

・二〇一三年度の行事・役割

②敬老感謝ミサ 九月九日(日) 十時半

懇親会 ミサ後

事務所より案内状送付

③教区司祭黙想会

九月十日(月)～十四日(金)

④司教ブロック訪問

九月十六日(日) 九時 山科教会

⑤大日山墓地清掃 九月二十三日(日)

十時半ミサ後

⑥教会美化デー 九月三十日(日)

三 待降節黙想会 十二月十五日(土)

十時～午後四時

指導司祭 溝部脩司教

々

●2012年9月～11月の行事予定●

9/2	日		河原町教会評議会9月例会
9/9	日	敬老感謝ミサ 10:30	ミサ後懇親会
9/10	月	～14(金)	教区司祭黙想会
9/16	日	司教ブロック訪問 9:00	山科教会
9/23	日		大日山墓地清掃
9/30	日		教会美化デー
10/7	日		河原町教会評議会10月例会
10/14	日		衣笠墓地清掃
11/1	木	諸聖人の祝日	
11/2	金	死者の日 合同追悼ミサ 18:30	
11/3	土	第33回京都南部ウォーカーソン	
11/4	日	教区合同墓参(衣笠教会、大日山墓地) 14:00	
11/11	日	七五三お祝い 10:30	ミサ 河原町教会評議会11月例会

お知らせ (敬称略)

◆入門講座 新規スタートと終了のお知らせ。

月曜日の入門講座が終了いたしました。新たに9月19日より次の入門講座が始まります。水曜日 10:00 村上真理雄神父 水曜日 19:15 花井拓夫神父

◆9月30日(日)は教会美化デーです。ミサ後、教会の清掃をいたします。一人でも多くの方のご協力をお願いします。

◆京都南カトリック学園の運営する次の幼稚園が老朽化、耐震構造化工事のために全面改築します。

- ・青谷聖家族幼稚園(園長 畑中美智子) 城陽市向中原11
- ・精華聖マリア幼稚園(園長 岸禮子) 相楽郡精華町南福八妻丸山2

◆10月11日(木)午後7時より、ニュージーランドクライスト教会「プレスト・サクラメント大聖堂染付」によるコンサートが、聖堂にて行われます。マニフィカト(聖母マリア賛歌)をテーマに約1時間の演奏会です。(無料)

◆10月17日(水)河原町通りバレット振興商店街の工事完成式典が行われます。式典はロイヤルホテルで行われ、当教会は、前庭にテントを張り、バザーなどのイベント等の協力を予定しています。

◆(訂正)前月号4頁行事予定の欄の、9月16日(日)司教ブロック訪問時刻13:00は、9:00が正しい時刻です。お間違いないようお願いいたします。

河原町教会 ミサの時間

日曜日(主日のミサ)

7:00

10:30

12:00 (英語)

月曜日 6:30

火曜日 6:30 18:30

水曜日 6:30 18:30

木曜日 6:30

金曜日 6:30 18:30

土曜日 6:30

18:30 (主日のミサ)

信仰の学びの講座

河原町教会では次の講座が開かれています。どなたでも自由に参加できます。

◆信仰入門講座◆

火曜日 10:00 花井 拓夫 神父

19:15 ポアペール 神父

水曜日 10:00 村上真理雄神父(※)

19:15 ポアペール 神父

19:15 花井 拓夫 神父(※)

金曜日 19:15 村上 透磨 神父

※9月19日(水)より新規スタート。

水曜日の花井神父様の講座は3F応接室です。その他の講座は一階集会室です。

◆信徒養成講座◆

信仰をより深めたい信徒の方のための講座です。(月に1回)

担当司祭 北村 善朗 神父

テーマ 「秘跡を学ぶ」

9/20(木) 14:00

10/18(木) 14:00

11/15(木) 14:00

テキスト 『カトリック教会のカテキズム要約』